

令和6年度 江東区立第二砂町中学校 自己評価表

校長名 金久保 勝

目標に向けた取組についての自己評価

重点領域 1		確かな学力の定着・向上			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	「『分かる授業』を実践するための教材研究及び授業改善を計画的・継続的に行っている」という教員の取組状況評価の肯定率を90%以上にする。	100%	「授業は工夫がなされていて、受けていて楽しい」と回答する生徒取組状況評価の肯定率を90%以上にする。	92.7%	A
2	「こうとう学びスタンダード（ネクストステージ）」の達成に向けて授業改善を図る（国語、数学、英語、保健体育）」という教員の取組状況評価の肯定率を90%にする。	95%	「こうとう学びスタンダード（ネクストステージ）」を意識して授業に参加している」と回答する生徒の取組状況評価の肯定率を90%以上にする。	73.3%	B
3	「こうとう学び方スタンダード（ネクストステージ）」をもとに、授業規律を重視し、授業中の私語や問題行動に対して的確に指導している」という教員の取組状況評価の肯定率を100%にする。	96%	「こうとう学び方スタンダード（ネクストステージ）」を理解し、授業中は私語をせず、周りに迷惑をかけることなく真面目に授業に集中し、参加している」と回答する生徒の取組状況評価の肯定率を90%以上にする。	87%	B
4	「オンライン教材を活用し、一人一人の理解度を把握した授業展開に努め、生徒個々に達成感を味わわせる指導の工夫・改善をしている」という教員の取組状況評価の肯定率を90%以上にする。	88%	「一人一台の端末を積極的に活用し、主体的に学習に取り組み、達成感・成就感を得た」という生徒の取組状況評価の肯定率を90%以上にする。	91.3%	A
5	「一人一台の端末を活用し、自分の考えを発表したり、話し合いのまとめをICT機器を活用して行ったりするなど、多様な発表方法、個に応じた学習に工夫を凝らし、『主体的、対話的な深い学び』の実現に努めている」という教員の取組状況評価の肯定率を90%にする。	79%	「一人一台の端末を活用し、自分の考えや話し合いのまとめを発表したり、発表方法に工夫を凝らしたりするなど、積極的に端末を活用して授業に参加している」と回答する生徒の取組状況評価の肯定率を90%以上にする。	94.7%	A
6	「全学年朝読書を実施し、読書の啓発活動を推進するとともに、図書室を利用する生徒の拡充を図る」という教員の取組状況評価の肯定率を90%にする。	83%	「日常の生活で読書をする習慣が身に付いた」と回答する生徒の取組状況評価の肯定率を80%以上にする。	72.2%	B
7	「各種検定試験に積極的に受験さを勧め、裏付けのある自信の育成に努める」という教員の取組状況評価の肯定率を90%にする。	92%	「各種検定試験に積極的に挑戦した」と回答する生徒の取組状況評価の肯定率を50%以上にする。	100%	A

<様式1>

<結果についての分析と改善策>

- 1 「授業は工夫がなされていて、受けていて楽しい」について、教員の授業改善が進んできた成果が出ていると思う。今後も授業改善に努め、「分かる授業、楽しい授業」作りを進めていきたい。
- 2 「こうとう学びスタンダード（ネクストステージ）を意識して授業に参加している」の達成度は73.3%と低かった。今後、こうとう学びスタンダード（ネクストステージ）を生徒に意識させる努力を授業内でやっていく。
- 3 「こうとう学び方スタンダード（ネクストステージ）を理解し、授業中は私語をせず、周りに迷惑をかけることなく真面目に授業に集中し、参加している」の達成度は87%で目標値には届かなかった。授業規律の改善が必要と思われる教科もあるが、学校全体の課題としてこうとう学び方スタンダード（ネクストステージ）を教員に意識させるとともに、生徒には私語をして周りに迷惑がかからないように授業に参加するように指導していく。
- 4 「一人一台の端末を積極的に活用し、主体的に学習に取り組み、達成感・成就感を得た」の達成度は91.3%で、一人一台の端末の有効活用が生徒の主体性の向上に繋がってきた。今後も評価指数90%以上の達成に向け、生徒が積極的に活用できる環境作りを考えていきたい。
- 5 「一人一台の端末を活用し、自分の考えや話し合いのまとめを発表したり、発表方法に工夫を凝らしたりするなど、積極的に端末を活用して授業に参加している」について、各教科のみならず特別活動や総合的な学習の時間でも端末を活用し、話し合い活動を積極的に取り入れてきた成果が出てきた。今後も端末の有効利用を考えていきたい。
- 6 「日常生活で読書をする習慣が身に付いた」の達成度は72.2%であった。朝読書を毎日行い、短時間ではあるが読書を継続して行っているが、まだ習慣として身に付いてはいないようなので、今後も朝読書だけではなく、図書委員会の読書啓発運動を通して、読書の大切さや楽しさを生徒に伝えていく。教員も一緒に読書を行い、生徒に読書の楽しさを伝えられるようにしたい。
- 7 「各種検定試験に積極的に挑戦した」の達成度は100%であった。地域学校協働本部が中心となって漢字検定、数学検定、英語検定（2次面接練習も）等を幅広く実施している成果が出ている。来年度もさらに生徒に目標をもたせ、積極的に受検するように働きかけたい。

重点領域2		豊かな心と健康な身体の育成			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	「道徳の授業や総合的な学習の時間、行事等を通して、命の大切さや思いやりの心、規則遵守、社会貢献の心等を育て、道徳的心情を高める指導を組織的、計画的、継続的に実践している」という教員の取組状況評価の肯定率を90%にする。	96%	「社会のルールやマナーを守るとともに、命を大切にし、思いやりをもって人と接している」と回答する生徒の取組状況評価の肯定率を90%以上にする。	107%	A
2	「何事に対しても、生徒が目標をもって、よく考え、最後まで努力してやり切る姿勢・態度の育成を図るために創意工夫した」という教員の取組状況評価の肯定率を100%にする。	100%	「何事に対しても、よく考え、目標をもって最後まで努力してやり切っている」と回答する生徒の取組状況評価の肯定率を90%以上にする。	94.1%	A
3	「生徒が自ら身だしなみを整える習慣が身に付くように、日頃より丁寧に身だしなみについて指導している」という教員の取組状況評価の肯定率を90%にする。	92%	「自ら身だしなみに注意し、整えるようにしている」と回答する生徒の取組状況評価の肯定率を90%以上にする。	101%	A
4	「日常の挨拶をすべての教員が元気よく率先垂範するとともに、朝のあいさつや授業の始めと終わりのあいさつは教員が先がけて行うことで生徒の模範となり、指導を行う」という教員の取組状況評価の肯定率を100%にする。	100%	「朝のあいさつや授業の始まりと終わりのあいさつでは、元気よく声を出してあいさつしている」と回答する生徒の取組状況評価の肯定率を90%以上にする。	85.3%	B
5	「朝や教室移動での遅刻者に対する指導の徹底やチャイム着席の励行等を通して、時間を守る意識を定着させる」という教員の取組状況評価の肯定率を90%にする。	100%	「登下校時刻やチャイム着席等の時間を守っている」と回答する生徒の取組状況評価の肯定率を90%以上にする。	104%	A
6	「全教育活動で言語活動を充実させ、生徒の思考力や判断力、表現力を育成するため、教員が丁寧な言葉遣いを意識し、話す速さ、明瞭な発音・発声、主述の整った話し方に気を配る」という教員の取組状況評価の肯定率を90%にする。	100%	「日頃から言葉遣いに注意し、丁寧に話すように心がけている」と回答する生徒の取組状況評価の肯定率を90%以上にする。	91.6%	A
7	「日常的に生徒観察を行う、また自ら生徒の中に入ってコミュニケーションをとって生徒理解を深めるとともに、教員間で組織的に生徒の状況把握を行い、諸問題の早期発見、早期対応に努める」という教員の取組状況評価の肯定率を100%にする。	100%	「先生は生徒のことをよく考え、相談しやすい雰囲気をつくっている。また、親身になって相談にのってくれる」と回答する生徒取組状況評価の肯定率を95%以上にする。	88.6%	B

<様式1>

<結果についての分析と改善策>

- 1 「社会のルールやマナーを守るとともに、命を大切に、思いやりをもって人と接している」の成果指標は目標値を超えたが、肯定率90%での目標達成である。一部の生徒ではあるが、思いやりに欠ける、人の心を傷つけるような行為はまだ見られるので、継続指導していく。また、ルールやマナーについても、その大切さを改めて説諭し、日常生活で活かせるように指導していく。
- 2 「何事に対しても、よく考え、目標をもって最後まで努力してやり切っている」の達成度は94.1%であった。この1年間最後までやり切ることの意味や大切さを説いてきたが、生徒にはかなり浸透してきたようである。今後も継続指導していく。
- 3 「自ら身だしなみに注意し、整えるようにしている」について、目標は達成できた。しかし、保健体育の授業がある日はジャージ登校なので、制服を着ている日数は多くはない。「着こなし」がしっかりできているかは制服を毎日着用させてから判断したいので、来年度からジャージ登校は禁止にし、毎日制服で登校することに切り替える。
- 4 「朝のあいさつや授業の始まりと終わりのあいさつでは、元気よく声を出してあいさつしている」の達成度は85.3%だが、実感はない。まず、授業の始まりと終わりのあいさつをしっかりさせたい。朝のあいさつ運動は生徒会が中心に取り組み、一定の成果は上げている。来年度は普段のあいさつに繋がるように生徒に意識させた指導を行っていききたい。
- 5 「登下校時刻やチャイム着席等の時間を守っている」の達成度は104%で、目標値を上回った。時間を守ることは生徒に十分浸透していると言える。来年度は余裕をもって時間を守れるように指導していく。チャイム着席に関しては、始業のチャイムが鳴ると代表委員等が呼びかけている学年もあるので、自分から時間を守って自席に着き、授業が受けられるように指導していく。また、遅刻気味の生徒に対しては個別指導を徹底するとともに、家庭とも連携をしっかりと取っていききたい。
- 6 「日頃から言葉遣いに注意し、丁寧に話すように心がけている」の達成度は91.6%で目標はほぼ達成しているが、約18%の生徒はあまりできていない、またはできていないとの回答であった。普段の学校生活でも言葉を大切にしているとは思われない生徒もいるので、しっかり指導していく。また、教員も生徒の鏡であることをより意識し、生徒と応対するときは、言葉遣いに関して意識の向上を図りたい。
- 7 「先生は生徒のことをよく考え、相談しやすい雰囲気をつくっている。また、親身になって相談にのってくれる」の達成度は88.6%だが、否定的意見は約17%あった。生徒の話に耳を傾けることが大切だが、教員への不信感を拭うように信頼回復に努めたい。

<様式1>

重点領域3		特別活動の活性化・委員会活動や部活動の充実			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	「生徒に活躍させる機会を設定し、『みんなが輝ける』ように適切な指導を行った」という教員の取組状況評価の肯定率を90%にする。	92%	「自分が活躍した体験が1回以上ある」と回答する生徒の取組状況評価の肯定率を90%以上にする。	85.6%	B
2	「行事や生徒会活動、学級活動、部活動等で、生徒に役割を与えて自覚・責任を促す等、生徒の活動を生かした生徒指導を行うとともに、それによる生徒の変容を日常生活に生かす指導を行った」という教員の取組状況評価の肯定率を90%にする。	96%	「行事や生徒会・係活動、部活動等に前向きに取り組み、最後まで責任をもって自分の役割を果たし、達成感・成就感を得た」と回答する生徒の取組状況評価の肯定率を90%以上にする。	96.2%	A
3	「部活動を通して、向上心や良好な人間関係を構築する姿勢・態度の育成に努めた」という教員の取組状況評価の肯定率を90%にする。	92%	「楽しく部活動ができ、忙しくても部活動が励みとなり、自分の人間形成に役立っている」と回答する生徒の取組状況評価の肯定率を90%以上にする。	86%	B
<p>&lt;結果についての分析と改善策&gt;</p> <p>1 「自分が活躍した体験が1回以上ある」の達成度は85.6%であったが、肯定率が生徒は76%、教員は92%とかなり乖離している。この溝を埋めるためにも、教員が今以上に生徒理解に努め、生徒が活躍できる場の設定を再度考えていきたい。また、生徒の自己肯定感を高める指導も考えていく。</p> <p>2 「行事や生徒会・係活動、部活動等に前向きに取り組み、最後まで責任をもって自分の役割を果たし、達成感・成就感を得た」の肯定率は86%、達成率は96%で、目標はほぼ達成できた。しかし、否定率14%の意味を考え、指導の工夫が必要と考える。生徒全員が責任をもって自分の役割を果たせるように、全体指導だけでなく個別指導も充実させていきたい。</p> <p>3 「楽しく部活動ができ、忙しくても部活動が励みとなり、自分の人間形成に役立っている」に関して、部活動に所属していない生徒も回答しており、実質の達成率は93%になる。部活動を途中で退部する生徒もいるが、生徒のほとんどは目標に向かって熱心に取り組んでいるので、来年度もできるだけの支援をしていきたい。</p>					

重点領域4		家庭・地域と連携した健全育成			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	「学校ホームページの内容を充実させ、学校だより、各種通信等を定期的に発行した」という教員の取組状況評価の肯定率を90%以上にする。	83%	「学校だよりやホームページ等から『学校の様子が分かる』という保護者の取組状況評価の肯定率を90%以上にする。	91.3%	A
2	「必要に応じて、生徒の課題等をオンラインで実施し、家庭と連携した学習を展開した」という教員の取組状況評価の肯定率を90%以上にする。	68%	「オンラインによる課題学習に対し、適切に学習に努めた」と回答する生徒の取組状況評価の肯定率を90%にする。	91.1%	A
3	「ボランティア活動や地域との連携行事等、生徒の自立や社会参加に向けた取組の支援に努めている」という教員の取組状況評価の肯定率を90%以上にする。	83%	「職場体験やボランティア活動、保育体験、地域活動等、社会参加に向けた活動に積極的に参加している」と回答する生徒の取組状況評価の肯定率を90%にする。	43.9%	C
4	「地域学校支協働本部の活動を活性化させ、PTAや『おやじの会』の協力を得ながら、生徒の健全育成を図っている」という教員の取組状況評価の肯定率を90%にする。	88%	「地域行事等を通して培った地域への帰属感が高まった」という生徒の取組状況評価の肯定率を70%以上にする。	64.9%	B
5	「生徒理解、生徒指導を深めるため、家庭や地域、保幼小、児童相談所、家庭支援センター等の関係諸機関との連携強化に努めている」という教員の取組状況評価の肯定率を80%以上にする。	92%	「学校は生徒一人一人を大切にし、保護者の意見や要望に耳を傾け、教育活動に生かしている」という保護者の取組状況評価の肯定率を95%以上にする。	77%	B
<p>&lt;結果についての分析と改善策&gt;</p> <p>1 「学校だよりやホームページ等から『学校の様子が分かる』という保護者の取組状況評価の肯定率は82%で、達成度は91%となっている。できる手段は全て活用して配信しているので、来年度は内容の充実も図り、生徒の学校での様子を伝えたい。</p> <p>2 「オンラインによる課題学習に対し、適切に学習に努めた」に対して、約82%の生徒が肯定的評価をしていた。来年度は今年度同様、肯定率90%を目標に指導していく。また、課題の内容も精査していきたい。</p> <p>3 「職場体験やボランティア活動、保育体験、地域活動等、社会参加に向けた活動に積極的に参加している」の肯定率は32%、達成度は43.9%と低かったが、2年生は職場体験、3年生は保育体験を行った。地域のボランティア活動にも参加した生徒もいたので、実際の肯定率はもっと高いと考えられます。しかし、地域の活動やボランティア活動への参加が少なかった。周知が不十分であったことも原因の一つと考えられるので、募集の仕方も含め、確実に生徒に周知徹底し、教員からも勧めるようにしたい。</p> <p>4 「地域行事等を通して培った地域への帰属感が高まった」については、地域行事等に参加した生徒が少なかった結果の表れと考えられる。教員はPTAやおやじの会との連携強化に努めていると回答しているが、生徒にはあまり反映していない。まず教員が生徒に地域行事等への参加を促し、ボランティア活動等を通して達成感や成就感、地域への帰属感を感じられるように働きかけていきたい。</p> <p>5 「学校は生徒一人一人を大切にし、保護者の意見や要望に耳を傾け、教育活動に生かしている」の保護者の肯定率が約73%で、効果指標は77%と十分な評価は得られなかった。信頼回復に向けて、生徒とのコミュニケーションを大切に生徒理解に努め、保護者との協力関係を密に、教育活動を推進していきたいと思う。</p>					

【評語】 成果指標（こども側）の達成度に応じて決定する。  
A：90%以上（目標達成とみなし、次年度は新たな目標を設定する）  
B：50%以上90%未満  
C：50%未満（目標や努力指標等を見直す）